

第33回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会 報告書

2019年9月21日～23日

愛知県岡崎市「岡崎中央総合公園」

- 主催 公益社団法人日本オリエンテーリング協会
共催 全国高校生・中学生オリエンテーリング連盟 OS 会
特定非営利活動法人愛知県オリエンテーリング協会
協賛 株式会社ニチレイ
多摩オリエンテーリングクラブ
後援 公益財団法人日本オリンピック委員会
愛知県
岡崎市
岡崎市教育委員会



スポーツ振興基金

独立行政法人日本スポーツ振興センター



LiteraMed

SALMING.
no nonsense.



1. 目次

1. 目次	2
2. 挨拶	3
実行委員長 友田 賢吾	3
運営責任者 谷野 文史	3
競技責任者 和佐田 祥太郎	3
3. 総評（業務内容・問題点・対策）	4
実行委員長 総評	4
運営責任者 総評	7
競技責任者 総評	8
4. 各パート報告書	10
スタートパート	10
フィニッシュパート	10
救護パート	11
計算センターパート	13
5. 公式成績表	17
6. 運営者	29

2. 挨拶

実行委員長 友田 賢吾

第 33 回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会の実行委員長として、この大会を無事に終えられたことを嬉しく思います。昨年の秋ごろにこの役職を拝命し、以降ミーティングも重ねながら本番まで進めてまいりましたが、その過程は立ちは大壁の連続でした。しかし幸いにも実行委員会のメンバーには優秀な人が多く、省力運営という方針ではあったものの、昨年度までに劣ることのない大会を開催できたのではないかと感じております。幾度となく彼らの全力に助けられ、ここまでやり遂げられたことに感謝いたします。

最後になりましたが、本大会にご協力・ご理解いただきました全ての関係者の皆様に実行委員会を代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。

運営責任者 谷野 文史

運営責任者を務めました筑波大学 3 年の谷野文史です。私は京都教育大学附属高校というオリエンテーリング部のない高校で日々を過ごし、大学でこの素晴らしいスポーツと出会いました。そんな私が今回この役を務めたのは、これからのオリエンテーリング会を担う小学生から高校生のオリエンティアに、本格的な競技で仲間と競い合える選手権を・憧れの舞台としての選手権を肌で感じてもらい、今後の活動に活かして欲しかったからです。この目標に対して私はどれだけ貢献できたかはわかりませんが、選手の生き生きとした表情を見ることができたり、会場で大きな歓声を聞くことができたので私は務めてよかったなと強く感じています。

競技責任者 和佐田 祥太郎

競技責任者を務めました、京都大学 2 年の和佐田祥太郎です。中学からオリエンテーリングを始めた私にとって、この大会には特別な思いがあります。自分がかつて目標としていたように、今のジュニア選手達が本気で目指せる場を提供したい、そんな思いから競技責任者を引き受けました。今年度は大会・運営のあり方が大きく変わった最初の年となり、試行大会としての位置づけもありましたが、やはり変化していくことは簡単ではないと感じています。運営をする中で課題・改善点も見えましたが、当初の目標であった公正な競技の場を提供することは達成できて本当に良かったです。おわりに、本大会の開催にあたりご協力いただいた皆様、そして大会に参加された皆様に厚く御礼を申し上げます。

3. 総評（業務内容・問題点・対策）

実行委員長 総評

業務内容

①関係各所とのコンタクト

本年度は岡崎オリエンテーリング協会様に現地渉外を行っていただいたため、渉外に関する直接的なコンタクトは挨拶、当日の専有許可証の受取等、最低限に留まった。なお渉外にあたり、同協会の三井氏には多大なるご協力をいただいた。

また、協賛企業・クラブへのコンタクト（協賛品についての相談・依頼）も行った。

主催である日本オリエンテーリング協会には実行委員会の重要議案の意思決定の際に様々な助言をいただいた。また重要文書については同協会 HP への掲載依頼を出す等行った。なお助言、HP 掲載依頼についてはジュニア委員会の落合氏にご協力いただいた。

その他、大会専用バス、③に示す資材借用先とのコンタクトも行った。

②運営全体のスケジュールリング

当日運営のスケジュールについては運営責任者に一任した。一方で事前準備も含む、長期的なスパンでのスケジュール、エントリー・資材・会計・コース設定等の大会の根幹に関わるタスクの工程管理を行った。とくにコース設定のスケジュールについては、8月の試走において試走者より様々な意見をいただき、多くの修正を行ったため、事前準備のスケジュールをずらすことで対応した。

その他、各担当の業務のサポートを行った。

③資材レンタルの手続き、および管理

資材担当を設けていたが8月中旬よりレスポンスが得られ辛くなったため、計時機材・会場資材等の資材調達を8月下旬より行った。

④セレクションエントリーおよび大会エントリーの取りまとめ

上記同様、エントリー担当を設けていたがセレクションの段階でレスポンスがほぼ無くなったため業務を引き継いだ。

なお大会エントリーについては締切日をすぎたのエントリーが数件あったが、いずれも一般・併設クラスへのエントリーであったため、選手権クラスへの影響はないと判断し、全て救済した。

⑤参加費の入金管理

会計担当から上がった入金報告をとりまとめ、随時文書にて参加費入金状況を公開した。

参加費の入金については選手権・一般クラスでは事前振込を求めたが、入金締切日をすぎても入金が確認できなかった学校が多かった。そのため事前振込が確認できなかった学校には、当日の受付での決済を求めた。

⑥広報物発行の承認

要項、プログラム等の広報物を発行する際に内容を確認し、適宜修正と承認を行った。

問題点・対策

①情報公開の遅れ

関東セレクションでは、セレクション指定大会のエントリー締切期日間際に、セレクション指定クラスを公表したため、参加者の混乱を招いた。これは他の業務に集中していたために、セレクション指定クラスをすでに公表したと勘違いをしていたことに起因する。参加者からの問い合わせにより問題が発覚した。早急に広報物を作成し公表した。

実行委員会内で共有のタスク管理システムを導入するなどし、担当が忘れていても周りが指摘できるような、タスクの視覚化を逐一行うべきだった。

②業務の偏り

各担当を決め、基本的にはその担当から上がってくる懸案事項についての審議と承認を主な業務にする予定だったが、担当からのレスポンスが極めて遅くなる・無くなるケースがあり、その担当の業務を乗っ取る形で引き継ぎを行ったため、各担当の業務量に偏りが生まれた。

担当を 1 人ではなく、複数人のチームとすることで、担当責任者のレスポンスが遅くなっても、他メンバーで対応できるように、初期の段階から業務パートによる分類を行うべきだった。

③資材管理リストの非作成

他の業務が忙しくなりつつある時期に一部の資材管理業務を背負ったため、自分の頭の中にしか資材リストがなく、視覚化されていなかったことにより、大会直前になって不足資材が発覚するなどした。幸いにもほとんどの必要資材を確保することが出来たが非常に危険であった。

資材リストの作成のほか、借用資材については途中経過も含む備考の記載を行い、運営内でオープンにされるべきだった。

提言

①セレクション方法について

参加校数も多くなり、従来の関東枠、関西枠でのセレクションでは公平さに欠けるクラスが出てきた。またセレクションは実行委員会においても、セレクション指定先の大会においても負担であるため、一定のルールを定めた上で各学校より推薦を行うことを提言する。

※従来の学校枠（学校ごとに各クラス 1 名に選手権出場資格を与えること）を 1 名から 2 名にし、上限を設けた上で前年度の一定の順位以上にいる各校の選手の人数分の出場資格を与える等。

②プロデューサーの設置

ほとんどが大学生のみで構成される運営体制も、この大会の 1 つの魅力ではあったが、やはり限界があるように感じる。全日本ミドルや全日本ロングのように、数年のスパンでこれからのジュニア選手権を考え、それを実現する者が必要であると考え。

③実行委員の募集方法について

本年度までは昨年度の実行委員会に携わった者やその伝手で実行委員会を構成していた。しかし日本オリエンテーリング協会が主催になった今、ジュニア選手権を前年度実行委員会メンバーの私的な伝手で構成するのは不適切である。日本オリエンテーリング協会が主導して実行委員を募集するべきだと考える。

2019 年 10 月 27 日発行

④重役の選定について

本年度は実行委員会の特に重役同士が地理的に遠くなったためにダイレクトにコンタクトを取れる機会が格段に減った。そのため情報共有も盛んに行われなかった。地理的懸隔は実行委員会にとっては非常にマイナスである。そのため重役については開催地の都道府県協会の加盟員等より選定すべきと考える。

2019 年 10 月 27 日発行

運営責任者 総評

業務内容

①実行委員会の結成

昨年までの IH(インターハイ)では、OS 会を中心に運営者を集めていた。ところが、中高 OB・OG による担い手不足が深刻化しており継続的な運営体制を整えることが難しくなってきた。そこで今回は 2 つの点に目標を置いて実行委員会を結成した。1.若手中高 OB・OG のジュニア選手権担い手育成 2.開催地に近い大学生クラブとの協力。特に、2 のために様々な大学に人員を要請したことはよかったと考えられる。ジュニア選手権の認知度の向上や、今後の協力体制の基盤作りをすることができた。

②運営当日のスケジュール組

様々な団体から運営者が集まっているため、スケジュール組がポイントになると考えていた。一目で自分がどの時間に何をすべきかがわかるようなスケジュールを組んだ。特に色を工夫しどの車に自分が乗るべきかを明示する点については運営者内で好評であった。これにより後述の当日イレギュラーなトラブルがあった際に人を動かすことが容易であった。

③コントロール

当日各パートからの人員要請や、トラブル対応が LINE 上に浮上してくるので個々人のスケジュールを元に適切な人員を即時に動かした。

問題点・対策

①会場レイアウト

リレーへの知識不足により、予定したレイアウトでは競技に悪影響を与えることが判明したため団体戦前日にレイアウトを大幅に変更した。今後は計セパートや競技責任者、また EA と話し合いしっかりと決めるべきであった。

②救護について

救護に必要な氷や給水の数が足りないため当日追加購入する必要性が生じた。今回のトレインは立地的によくそういった対応ができたが、他のトレインで開催する場合にはあってはならないことである。

反省点

①資材について

資材パート長を置いていたのだが機能しなかったため資材に関して様々なところで支障が出た。特に必要なものがないことが前日に判明したりした。しかも資材の多くを実行委員長しか把握していなかったため、実行委員長に大きく負担がかかる結果となった。今後は 3 役で資材等情報を共有しておくことに加え、しっかりとパート長を据え長期的に資材を調整する必要がある。

②仕事のすみ分け

3 役がそれぞれ遠くにいたため気軽に話し合う場を設けることができず、お互いの仕事の現状や仕事の割り振りがうまくいっていなかった。特に実行委員長には大きな負担がかかった。今後はパート長をしっかりと機能させ、3 役がすべきことを減らすことが大切である。

2019 年 10 月 27 日発行

競技責任者 総評

業務内容

①コースの設定

自分が競技責任者に就いた段階で岡崎中央総合公園での開催は決まっていた。トレイン内の会場候補を挙げて、大まかにコースの回しを考えることから始めた。

②試走・下見の指揮

コース案をもとに試走・下見を行い、適切なコースかどうかを判断した。同時にトレイン内に大きな変化がないかの下見も兼ねていた。

③会場レイアウトの決定

会場が BBQ 広場に決まった後、コースとの兼ね合いも考えながらレイアウトを決定していった。個人戦と団体戦でおおまかに使用エリアをすみわけすることを念頭に置いていた。

④地図調査

トレイン内に若干の経年変化が見られたので、会場周辺の小径を中心に簡易的な調査を実施した。

⑤競技地図の用意

事前準備の際に、申込者数と予備を考えながら地図印刷、およびビニールへの封入をした。

⑥テクニカルミーティング資料・詳細な団体戦レイアウトの作成

今年度は競技者を招集しての開会式・テクニカルミーティングを実施しなかったため、テクニカルミーティング資料に相当する資料を作成してホームページに公開した。

また、本大会は団体戦レイアウトが諸大会に比べて複雑であったため、当日の混乱を避けるため、団体戦 2 日前にホームページに詳細なレイアウト図を公開した。

⑦公式掲示板の作成

競技に関わる事柄でプログラムに未記載の物をまとめ、公式掲示板として公開した。

⑧設置、コントロール位置・動作の確認の統括

現地入りしてからの設置、コントロール位置の確認、大会当日朝の Emit の動作確認の統括と割り振りを行った。

⑨デモンストレーション

団体戦 1 走スタート前のデモンストレーションを実施した。

⑩調査依頼・提訴など競技に関わる事柄への対応

調査依頼があった場合はその回答を提示し、回答に対して提訴があった場合は裁定委員に裁定を依頼する、その準備をした。調査依頼・提訴の提出期限の時間を決めて、数人の参加者に裁定委員を依頼した。

問題点・対策

①個人戦

ジュニア選手達のレベルに合うような適切なコースを組むことを意識するため、全体的に難易度を抑えることを考えていた。一般クラス、女子中学生選手権クラス(JWE)、小学 5~6 年生選手権クラス(NHE)などにおいては意図通りに適切な距離・難易度のコースが組めた。しかし、女子高校生選手権クラス(WE)、男子中学生選手権クラス(JME)、男子高校生選手権クラス(ME)は難易度が高いコースとなってしまった。

2019 年 10 月 27 日発行

公正な競技のためには適切な難易度のコースは不可欠である。特に選手権クラスにおいては選手への期待からコースの難易度は上がる傾向にあるので、意図して難易度を抑えることが必要であると感じた

②団体戦

個人戦と同じく、適正な難易度・距離のコースを提供できなかったクラスが出てしまったことが反省である。また、団体戦会場レイアウトを決めたつもりでいたが、予定していた物では地図置き場、計センとの兼ね合いなどから競技に支障が生じることが分かり、前日に緊急で変更することになった。

③両日を通して

自分の競技責任者としての知識や確認の不足から迷惑をかけてしまった点が多々あった。その反省として、イベントアドバイザーをはじめとした経験豊富な方に積極的にアドバイスを求めているようなシステムを確立すべきだったと考えている。

所感

3役がそれぞれ離れていたため密なやりとりを行うことができず、業務の偏りなどが生じることになってしまった。今までの関東主体の運営とは違うことによる難しさがあった。それでも本大会で成功を収めることができたのは、運営に協力してくれた優秀な社会人、大学生の皆様のおかげである。特に実行委員長の友田には本当に感謝している。

4. 各パート報告書

スタートパート

文責：椎名 晃丈

業務内容

①選手権と併設のスタート地区

問題点・対策

- ①他のパートの運営者から 2 台のタブレット(iPad)を借りて選手権スタート地区のチャイマー兼時計として使おうとした。しかし、タブレットの時計の時刻は端末の内部の時刻を表示していたため 2 台の端末で時刻に 0.5 秒程度のズレが生じていた。mulka クラウドの時計機能にはズレがなかったため、mulka クラウドの時計とチャイマーを使用した。今後も mulka クラウドの時計を使用すればよいと思う。
- ②選手権スタート地区には給水があったが、ゴミ袋を用意するのを忘れた。木の枝を地面に刺して使用済み紙コップ置き場としたが、理解していない参加者が多かった。給水にはゴミ袋が必要である。
- ③公式掲示板が選手権スタート地区には設置されていたが隔離所には設置されていなかった。スタート地区が隔離所から遠かったため、隔離所にも設置した方がよかったと思う。

フィニッシュパート

文責：伊藤 良介、南 史久

業務内容

- ①フィニッシュレーン作成
②フィニッシュ補助
③サブ計時

問題点・対策

- ①ビデオカメラが動かない
→リセットして解決
- ②風が強すぎて設置したフィニッシュレーンがすぐに飛ばされてしまう事態がおきた。
→個人戦ではフィニッシュパート員だけでなく会場パート、さらには参加者にまでレーンを支えてもらっていた。リレーではストリーマーを地面に這わせて重りをつけておくことにして解決した。
- ③リレー 1 走でチェンジオーバーをせずにフィニッシュラインを越えた選手がいた。
(2 走の選手が 1 走の選手のスペクターズレーンの通過に気づかず、次走者待機枠に入っていなかった。1 走の選手もスタート後に帰還したと勘違いしていてそのままフィニッシュラインを越えてしまった。そもそもパートメンバーはフィニッシュライン直前で最大限止めようとしていたので、どうしようもなかった。)
→決定していた通り DISQ とした。2 走の選手に対しては運営責任者が対応した。

2019 年 10 月 27 日発行

反省点

- ・フィニッシュのレーン作成に思ったより手間取ってしまった。
- ・資材の Excel に書いてあったからといって油断していたら、ビデオカメラ用の三脚がなかった。
- ・個人戦前日にビデオカメラを会場に置きっぱなしにしてしまい、当日に容量や動作を確認することになってしまった。

参考

①パートマニュアル

<https://drive.google.com/file/d/1S9Yw-IQ24FmnQn1cTs6zKjkbkYSAaHNy0/view?usp=sharing>

救護パート

文責：小森 直人

業務内容

- ①救護所資材の確保
- ②緊急時の搬送先を調べる
- ③当日救護所の設置
- ④給水、ファーストエイド、怪我人を会場に送る
- ⑤怪我の連絡があった時、救護に行く
- ⑥救護所に置く人の振り分け
- ⑦救護所の撤収

問題点・対策

今大会は負傷者が少なく、ほとんどがファーストエイドで解決するものであったため、大きな問題はなかった。ポ確の際に蜂の巣を発見した事への競責の対応が迅速だったおかげで自分の知る限り、蜂に刺された人もいなかった。

反省点

机が非常に重たい物をレンタルしたので、かなり運ぶのに苦労した。今回競技責任者の指示で(公平性の面から)救護所の給水は各自で紙コップに注いでもらっていたので机はいらなかった。

次回大会では机が本当に必要なのか、必要な場合はアウトドア用の持ち運びが楽な机が用意できると良い。

参考（良トレより、救護に関する報告書。次ページ）

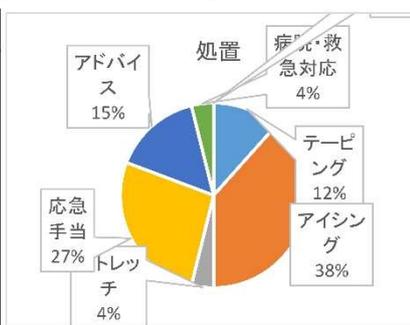
2019年10月27日発行

○救護班 傷害報告

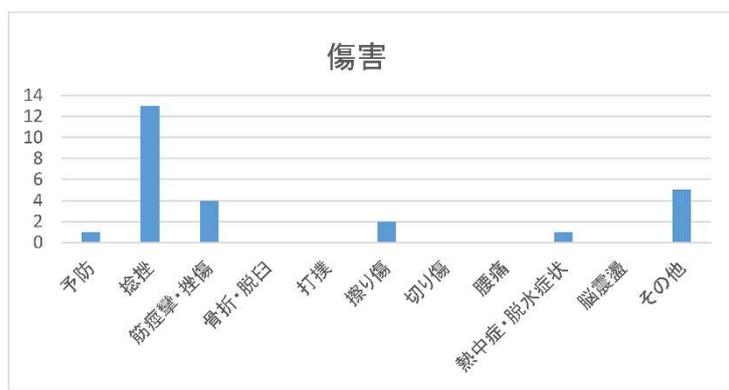
大会： 全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会
 場所： 岡崎中央総合公園
 期間： 2019 9/22 ~ 9/23

9/22	9/23	トレーナーブース 利用件数計
15	11	26

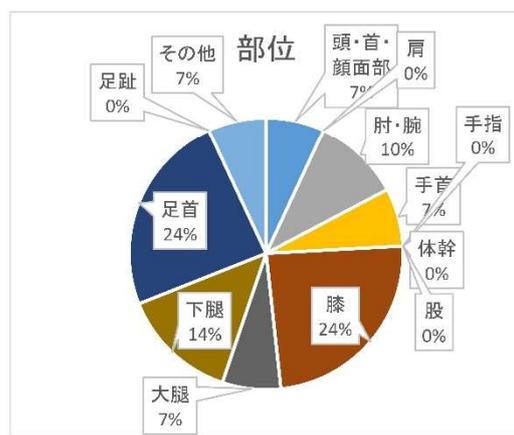
処置	9/22	9/23	計	備考
テーピング	2	1	3	・熱中症 日陰での安静、経口補水液による補給、アイシングにより回復。
アイシング	8	2	10	
ストレッチ		1	1	
応急手当	3	4	7	
アドバイス	2	2	4	
病院・救急対応		1	1	
その他			0	



傷害	9/22	9/23	計	備考
予防	1		1	・嘔吐 ・鼻血 ・植物による皮膚のかぶれ
捻挫	8	5	13	
筋痙攣・挫傷	3	1	4	
骨折・脱臼			0	
打撲			0	
擦り傷	1	1	2	
切り傷			0	
腰痛			0	
熱中症・脱水症状		1	1	
脳震盪			0	
その他	2	3	5	



部位	9/22		9/23		計
	右	左	右	左	
頭・首・顔面部	1		1		2
肩					0
肘・腕	2			1	3
手首				2	2
手指					0
体幹					0
股					0
膝	2	3		2	7
大腿			1	1	2
下腿	2		1	1	4
足首	1	4		2	7
足趾					0
その他			2		2

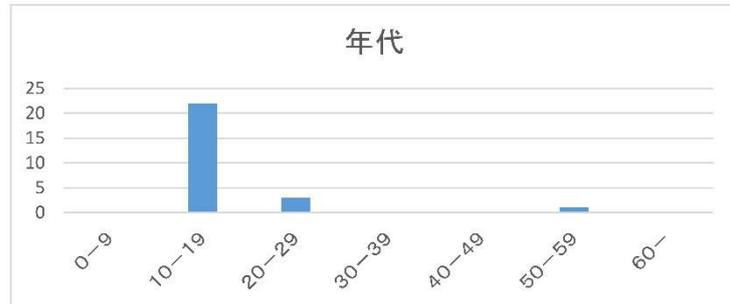


備考
 ・左膝の過伸展による靭帯損傷の可能性 1件
 アイシングとテーピングにて対応。帰宅後に整形外科の受診を勧めました。

男女	9/22	9/23	計
男	15	11	26
女			0



年代	9/22	9/23	計
0-9			0
10-19	12	10	22
20-29	2	1	3
30-39			0
40-49			0
50-59	1		1
60-			0



計算センターパート

文責：西村 直哉

以下の通り、第 33 回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会の計算センターパートの業務について報告する。なお、成績が確定する前に記したため、今後の変化があり得る。

業務内容

電子パンチングシステムの運用ならびに、事務的な範囲の成績の処理を担当するパートである。本大会における主な業務は以下の通りである。

- ① エントリーに関するデータの Mulka2 向けの最適化ならびに、Mulka2 の設定
- ② 競技者の E カードの読み取り、確認処理
- ③ オンラインコントロールの運用
- ④ 未帰還者情報の把握

また、以下の点において、他の担当者と協議の上、担当した。

- ① オンラインコントロールの設置に関する監督(オンラインコントロールの設置自体は救護パートにて実施)
- ② ユニットの設置に関する確認(設置位置そのものではなく、ユニットが発信するコントロール番号が予定していたものと異ならないかの確認である)の管理
- ③ 当日競技開始前のユニットの動作確認の監督

なお、判定が必要な事象については、競技責任者が判定し、それを計算センターパートが反映した。

2019 年 10 月 27 日発行

計時方式

本大会では、EMIT 社製電子パンチングシステム(E-card とコントロールユニットを用いる方式)を使用した。本大会における成績処理ソフトウェアは Mulka2 の、Ver2.22 ならびに Ver2.23 と、付属するクラウドサービスを使用した。

補助的な通過確認手段としてバックアップラベルを使用した。個人戦においては、パンチングフィニッシュ方式を採用した。個人戦においては、補助的なフィニッシュ時刻の確認手段として、第一に Mulka2 の機能を用いた担当者による記録を、第二にビデオカメラによる記録を用いた。

団体戦においては、フィニッシュラインの通過を担当者が確認する方式を採用した。なお、全クラスがマスタートであり、着順により順位が確定できることから、フィニッシュラインの通過時には計時を行っていない。

団体戦では、便宜的にフィニッシュ後にフィニッシュ順にユニットをパンチさせ、これをフィニッシュ時刻として成績に利用している。なお、事例はなかったが、接戦となった場合には、フィニッシュ順にパンチさせることで計算上のフィニッシュ時刻をずらし、成績処理を容易にする予定であった。

団体戦においては、選手権クラスの 3 走がフィニッシュする時刻には、フィニッシュラインの延長線上に裁定委員による確認を行ったほか、ビデオカメラによる記録を行った。

問題点・対策

①フィニッシュから計算センターまでは至近であり、完全に他の動線と隔離されていた。

②個人戦では失格の可能性のある競技者に対して、記録詳細を印刷し、バックアップラベルを貼り付けて保管した。団体戦ではプリンターが使用できなかったため、バックアップラベルにスタートナンバーを記入し保管した。

③全クラス共通の最終コントロールにおいては、ダブルユニットとした。この際に別の番号のユニットを使用している。このため、液晶表示機能付きカードにおいて、実際のコントロール番号と一致しない旨を公式掲示板で掲示した。

前日にコントロール位置の確認を行った際には、アクティベートユニットを使用できなかったため、正確に記録できておらず、確認ができなかった。

各当日の朝にユニットの動作確認をする際には、反応時にカードが光るタイプの E-Card を使用し、時間が不足する場合にはその場で動作確認をした。ただし、原則としては記録を読み取って確認した。

④昨年度までは個人戦のスタート順抽選が前日であったため、前日にデータの作成が求められたが、本年は事前にわかっており比較的負担は緩和されていた。

本大会ではリレーのチームオーダーが前日の午後に行われる。このため、例年このオーダーの処理を迅速に行うことが求められる。今回は、番号と内部向けの Web システムを用い、計算センターパート以外の手の空いた運営者が他の作業と並行して少ない作業量で入力できるようにしたため、例年より迅速に処理することができた。ただし、システムの完成度が低く、現状ではその後の処理に負荷がかかった。

2019 年 10 月 27 日発行

また現在のところ、運営に際し大きな瑕疵は判明していないが、以下のような事象があった。
より大きな問題に発展する恐れがあったものもある。

⑤資材不足

現地入り後に、一部の資材の不足が見られた。不足した資材のうち、顕著な問題になったのは以下である。

- ・ EMIT のリーディングユニット
- ・ ビデオカメラ
- ・ 確認用の地図類

このうち、リーディングユニットとビデオカメラについては直ちに手配した。確認用の地図は確保できなかったものの、2 日間大会であり全コントロールの位置を見せることが好まれなかったことも含め、問題なしと見なした。

⑥時計合わせ

電波時計が普及している昨今では、時計合わせは実時刻に合わせることが多い。

しかし、本大会でスタート用に使用した時計は、タブレット端末でアプリケーションを使用するものだったが、時刻の基準が不明であった上、手動による調整もできなかった。また、この方法による時計表示を複数で使用しており、これらが必ずしも一致しなかった。このような状況から、基準時刻の設定に苦慮した。

複数回試すとほぼ時報通りになった。また、大きくないずれであれば、記録に影響はあっても許容誤差以内である上、順位に影響がない。このため、特定の PC を基準に記録に関与する PC をすべて時刻合わせすることで問題がないものとした。

⑦悪天候

計算センターではその業務上、PC と電源が必要である。しかし、団体戦の朝に暴風雨がかったため、PC を使用するための机がぬれてしまったこと、発電機がぬれて漏電防止の観点から使用できなくなってしまったことから、運用が困難になった。

この問題は、公園から特別に許可を得て、自動車を持ち入れ、電源も自動車から確保することで解決した。

反省点

①資材不足について

主要役員との連絡が不足しており、当日まで手配されているものと思い込んでいた。より綿密な資材計画が必要であった。

②時計合わせについて

計算センターパートから意見を発信するべきであった。高度な情報社会の現代では、特定の時計に合わせるよりも、実時刻に合わせる方が容易であると思われる。ただし、競技中に時刻が自動で調整されることは、思わぬトラブルを呼ぶ。このため、競技中は自動調整機能の使用を中断するべきである。

③悪天候について

電気システムの防水や、防雨可能な区域を設定しそこで電子機器を使用することが一般論として必要である。

2019年10月27日発行

しかし、強風の影響や急な雨によって保護する前にぬれてしまったことは対応を困難にした。野外競技であるので、競技区域が無事で会場が大きな被害を受けることもまれであり、対策が必要な程度を超えていたと思われる。

ただし、テントは十分に大きくするべきであった。

なお、パートとして大会中稼働できるだけのバッテリーは確保してあったので、計時ができなくなるほどの致命的なトラブルではなかった。

個人的所感

本大会はリレー、オンラインコントロールの運用をはじめ、特殊な運用が多い。従って、綿密な計画と運用能力が必要であることを痛感した。

結果的に乗り切れたのは優秀なパート員や他パートの協力に恵まれた面が大きく、大いに感謝する。

5. 公式成績表

第 33 回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会

公式成績表

令和元年 9 月 30 日 第 33 回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会実行委員会

目次

個人戦の部 p2

団体戦の部 p10

2019年10月27日発行

個人戦の部

実施日 令和元年9月22日

トレイン 岡崎中央総合公園

参加者数(エントリー) 161名

出走者数 156名

各クラス/コース概要

クラス名	略称	参加者数	縮尺	競技時間	コース名	距離	登高
男子高校生選手権クラス	ME	20	1:15,000	150分	ME	5.8km	340m
女子高校生選手権クラス	WE	5	1:10,000	120分	WE	3.4km	180m
男子中学生選手権クラス	JME	21	1:10,000	150分	JME	3.5km	130m
女子中学生選手権クラス	JWE	3	1:10,000	120分	JWE	2.3km	90m
小学校5～6年生選手権クラス(男子)	NHE - 男子	3	1:10,000	120分	NHE	1.8km	85m
小学校5～6年生選手権クラス(女子)	NHE - 女子	4					
男子高校生一般クラス	M18	28	1:10,000	120分	M18	3.0km	210m
男子中学生一般クラス	M15	6	1:10,000	120分	M15/MF	2.0km	120m
男子高校生新人クラス	MF	11	1:10,000	120分			
女子中学生一般クラス	W15	1	1:10,000	120分	W15/JMF	1.8km	90m
男子中学生新人クラス	JMF	23	1:10,000	120分			
併設ロングクラス	AL	18	1:15,000	150分	AL	6.7km	410m
併設ミドルクラス	AM	17	1:10,000	120分	AM	3.2km	190m
併設ショートクラス	AS	1	1:10,000	120分	AS	1.9km	115m

2019年10月27日発行

男子高校生選手権クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	森 創之介	東海高等学校	1	1:16:40
2	生田 真大	東海高等学校	1	1:22:27
3	遠藤 颯汰	埼玉県立浦和高等学校	2	1:29:46
4	藤原 考太郎	東海高等学校	1	1:33:15
5	早川 正真	東海高等学校	1	1:38:44
6	寺嶋 謙一郎	豊島学院高等学校	1	1:41:32
7	伊藤 悠真	桐朋高等学校	1	1:44:20
8	福井 陽貴	兵庫県立小野高等学校	1	1:48:38
9	清古 光	麻布高等学校	1	1:49:09
10	福室 凜	麻布高等学校	1	1:50:46
11	牧戸 悠生	三重高等学校	1	1:52:09
12	栗田 稜也	麻布高等学校	1	1:59:51
13	一力 直太郎	桐朋高等学校	1	2:12:46
14	柴田 日向	桐朋高等学校	1	2:21:07
15	屋敷 龍吾	桐朋高等学校	1	2:29:07
	青木 祐人	桐朋高等学校	2	2:30:07
	塩野 遼介	桐朋高等学校	2	2:31:52
	高橋 光	山形県立新庄北高等学校	2	2:37:42
	金子 泰樹	桐朋高等学校	1	DISQ
	山見 泰輝	麻布高等学校	2	DISQ

女子高校生選手権クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	落合 英那	滝高等学校	2	0:49:06
2	古田島 鈴音	新潟県立長岡高等学校	2	0:54:49
3	飯沼 友梨	滝高等学校	2	1:07:55
	清水 優里	山手学院高等学校	2	DISQ
	佐藤 実紀	神奈川県立多摩高等学校	1	DNS

2019年10月27日発行

男子中学生選手権クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	尾藤 碩	麻布中学校	2	0:49:49
2	森下 謙	東海中学校	3	0:54:37
3	高田 朋輝	東海中学校	2	0:55:06
4	寺本 裕哉	東海中学校	3	1:01:05
5	高橋 裕貴	桐朋中学校	3	1:01:19
6	高橋 侑大	東海中学校	3	1:03:20
7	久米 慧	麻布中学校	3	1:06:17
8	林 祥太郎	東海中学校	3	1:07:19
9	山田 大暉	麻布中学校	2	1:11:45
10	山田 和輝	東海中学校	3	1:15:06
11	宮川 優斗	麻布中学校	3	1:22:58
12	伊藤 環	東海中学校	3	1:31:50
13	谷村 康介	麻布中学校	3	1:36:42
14	吉原 巧真	東海中学校	3	1:37:43
15	徳地 一真	麻布中学校	3	1:49:16
16	小比賀 草太	広島大学附属福山中学校	1	1:53:59
	青山 慶啓	麻布中学校	2	DISQ
	松本 敬	中央大学附属中学校	2	DISQ
	須田 雅大	麻布中学校	3	DISQ
	仁科 智裕	茨城県立並木中等教育学校	2	DISQ
	高橋 義	真室川町立真室川中学校	1	DISQ

女子中学生選手権クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	鈴木 万結	東京農業大学第三高等学校附属中学校	3	0:30:10
2	小笠原 鈴奈	中央大学附属中学校	2	0:30:18
3	酒井 心菜	東京農業大学第三高等学校附属中学校	3	0:35:56

小学校5～6年生選手権クラス(男子)

順位	氏名	学校	学年	記録
1	藤原 大志郎	名古屋市立極楽小学校		0:19:37
2	上田 脩司	四日市市立中部西小学校		0:20:27
3	古田島 研人	長岡市立豊田小学校		0:34:12

小学校5～6年生選手権クラス(女子)

順位	氏名	学校	学年	記録
1	小高 胡春	阿久比町立英比小学校		0:20:19
2	本間 光	袋井市立高南小学校		0:21:41
3	落合 美那	一宮市立瀬部小学校		0:23:24
4	佐藤 果凜	横浜市立荏田西小学校		0:26:25

2019年10月27日発行

男子高校生一般クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	木村 真大	埼玉県立浦和高等学校	2	0:34:53
2	星野 蒼太	東海高等学校	2	0:35:32
3	小寺 智樹	麻布高等学校	1	0:36:32
4	柴原 大雅	東海高等学校	1	0:38:55
5	山村 瑛	埼玉県立浦和高等学校	2	0:41:49
6	奥村 尚史	桐朋高等学校	1	0:42:34
7	塚越 貴哉	埼玉県立浦和高等学校	2	0:45:36
8	藤原 颯人	桐朋高等学校	1	0:46:32
9	曾田 和輝	埼玉県立浦和高等学校	2	0:46:47
10	森 旭陽	埼玉県立浦和高等学校	2	0:49:33
11	辻本 雄一郎	埼玉県立浦和高等学校	2	0:51:15
12	森本 裕冴	桐朋高等学校	2	0:51:17
13	道家 洋平	埼玉県立浦和高等学校	2	0:52:45
14	早松 勇輝	埼玉県立浦和高等学校	2	0:53:40
15	岩田 優貴	桐朋高等学校	1	0:53:59
16	中野渡 康太郎	桐朋高等学校	2	0:58:05
17	吉澤 秀斗	桐朋高等学校	1	1:02:20
18	小松 響介	埼玉県立浦和高等学校	2	1:03:43
19	菊池 悠希	桐朋高等学校	2	1:04:12
20	岡部 泰良	埼玉県立浦和高等学校	2	1:12:03
21	山本 剛司	埼玉県立浦和高等学校	2	1:14:42
22	星野 祐太	麻布高等学校	1	1:21:13
	大沼 翼	麻布高等学校	1	DISQ
	大西 明	桐朋高等学校	1	DISQ
	関谷 祐生	桐朋高等学校	2	DISQ
	大槻 直央	桐朋高等学校	1	DISQ
	富田 健生	埼玉県立浦和高等学校	2	DISQ
	細谷 崇文	桐朋高等学校	2	DNS

男子中学生一般クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	町田 涼介	麻布中学校	2	0:30:47
2	八木 優	麻布中学校	2	0:35:13
3	天野 雄貴	麻布中学校	3	0:40:15
4	望月 佳	麻布中学校	3	0:41:00
5	中野 航輔	麻布中学校	2	0:41:08
	大峰 聡太	麻布中学校	2	DISQ

2019年10月27日発行

女子中学生一般クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
	北島 晶子	共立女子中学校	3	2:00:08

男子高校生新人クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	諸藤 千喬	埼玉県立浦和高等学校	1	0:24:05
2	風見 大芽	埼玉県立浦和高等学校	1	0:28:05
2	関口 翔太	埼玉県立浦和高等学校	1	0:28:05
4	須田 道成	埼玉県立浦和高等学校	1	0:28:27
5	楠 佳泰	埼玉県立浦和高等学校	1	0:28:43
6	山田 裕太	埼玉県立浦和高等学校	1	0:30:58
7	滝沢 悠斗	埼玉県立浦和高等学校	1	0:33:05
8	齋藤 陽希	桐朋高等学校	2	0:33:48
9	中西 陽紀	埼玉県立浦和高等学校	1	0:36:26
10	山田 倫太郎	滝高等学校	2	1:12:38
11	三品 拓大	滝高等学校	2	1:18:35

2019年10月27日発行

男子中学生新人クラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	戸田 壮一	東海中学校	1	0:14:24
2	種村 浩太郎	東海中学校	1	0:17:23
3	濱田 樹	麻布中学校	1	0:17:38
4	石塚 皓	麻布中学校	2	0:18:32
5	松岡 瑛介	麻布中学校	1	0:18:43
6	小長谷 晃平	麻布中学校	1	0:19:54
7	小林 亮太	東海中学校	1	0:19:58
8	高橋 英幸	桐朋中学校	1	0:20:18
9	仁科 蓮	桐朋中学校	1	0:21:34
10	田部 悠葵	桐朋中学校	1	0:22:08
11	吉岡 皆那人	麻布中学校	1	0:22:54
12	濱崎 海七渡	麻布中学校	1	0:23:25
13	草谷 将吾	麻布中学校	1	0:24:12
14	黒田 悠悟	麻布中学校	1	0:25:19
15	植木 隆登	麻布中学校	1	0:26:29
16	玉木 洸	麻布中学校	1	0:28:29
17	小林 睦	麻布中学校	1	0:33:43
18	谷 悠芦	麻布中学校	1	0:42:48
19	長屋 清音	桐朋中学校	1	0:56:56
	小林 透哉	麻布中学校	1	2:09:27
	西尾 豪太	麻布中学校	1	DISQ
	武石 虹希	桐朋中学校	3	DNS
	磯部 建	桐朋中学校	1	DNS

2019年10月27日発行

併設ロングクラス

順位	氏名	所属	記録
1	谷川 友太	OLC ルーパー	1:00:09
2	岩井 龍之介	京大 OLC	1:03:39
3	南河 駿	OLC ルーパー	1:08:19
4	前田 裕太	三河 OLC	1:09:16
5	大野 絢平	京大 OLC	1:27:43
6	古池 将樹	京大 OLC	1:31:26
7	小池 椋介	京大 OLC	1:37:28
8	落合 志保子		1:40:16
9	佐藤 信彦	OLC サンスーシ	1:45:44
	小丸 幸佑	京大 OLC	2:36:58
	鹿野 勘次	岐阜 OLC	2:37:37
	龍溪 優希	京大 OLC	DISQ
	箕浦 皓	京大 OLC	DISQ
	加藤 以千弘	岡崎 OL 協会	DISQ
	山本 明史	京都 OLC	DISQ
	枝澤 勇太	京大 OLC	DISQ
	笹部 龍仁	京大 OLC	DISQ
	上田 浩嗣	Team Heart Golds	DISQ

併設ミドルクラス

順位	氏名	所属	記録
1	平沢 正紀	つるまい OLC	0:47:00
2	谷川 理恵	OLC ルーパー	0:49:08
3	宮崎 敦司		0:50:03
4	渡邊 彩子	トータス	0:50:10
5	鶴飼 須彦	OLC ルーパー	0:51:30
6	愛場 庸雅	OLC レオ	0:53:38
7	寺嶋 貴美江	ES 関東 C	0:54:02
8	牧戸 和之	伊勢志摩 OLC	0:59:29
9	小比賀 健司	朱雀 OK	1:10:38
10	村中 結希	京大 OLC	1:10:45
11	三井 由美	三河 OLC	1:15:13
12	仁多見 剛	上尾 OLC	1:20:26
13	佐藤 政明	大府市	1:25:29
	森本 潤		2:32:48
	長瀬 朋子	つるまい OLC	DISQ
	藤原 京子		DISQ
	加藤 昭治	東海市	DNS

併設ショートクラス

順位	氏名	所属	記録
1	加藤 千朋		1:01:40

2019年10月27日発行

団体戦の部

実施日 令和元年9月22日
 テレイン 岡崎中央総合公園
 参加チーム数[*1] 34チーム(2チーム)
 参加者数(ワンマン) 20名

[*1] 参加チーム数にはワンマンクラスの参加者数と、参考記録の対象チームは含みません。括弧内に参考記録のチーム数を記載しています。

[注意] 本大会では、選手権クラスにおいて同じ学校の最上位以外のチームの記録は参考記録となります。なおこれは出走段階では正規チームですので、[*1]のいう参考記録の対象チームには含みません。

各クラス概要

クラス名	略称	競技形式	参加チーム/人数[*2]	コース名	パターン
男子高校生選手権クラス	ME	3名によるリレー	7	MER	
女子高校生選手権クラス	WE	3名によるリレー	0(1)	XUR	
男子中学生選手権クラス	JME	3名によるリレー	5	JMER	
女子中学生選手権クラス	JWE	3名によるリレー	0	XUR	
男子高校生一般クラス	M18	3名によるリレー	12	XUR	
女子高校生一般クラス	W18	3名によるリレー	0	XUR	
男子中学生一般クラス	M15	3名によるリレー	6(1)	XUR	
女子中学生一般クラス	W15	3名によるリレー	0	XUR	
ワンマンクラス	OM	個人	6	XUR	A
併設リレークラス	OR	3名によるリレー	4	OR	
併設ワンマンロングクラス	OML	個人	6	OR	A
併設ワンマンミドルクラス	OMM	個人	8	JMER	A

[*2] 参考記録のチームは含みません。括弧内は参考記録のチーム数です。

各コース概要

コース名	パターン	距離	登高
MER	A	3.6km	215m
	B	3.6km	215m
	C	3.6km	215m
JMER	A	2.6km	165m
	B	2.7km	165m
	C	2.7km	165m
XUR	A	2.1km	115m
	B	2.1km	115m
	C	2.2km	115m
OR	A	4.0km	260m
	B	4.0km	260m
	C	4.0km	260m

2019年10月27日発行

男子高校生選手権クラス

	記録	第一走者	記録	第二走者	記録	第三走者	記録
1	東海 A 2:28:45	藤原 考太郎 B	1:05:09	早川 正真 C	0:45:18	森 創之介 A	0:38:18
2	麻布 A 2:51:37	栗田 稜也 A	1:23:51	清古 光 B	0:49:55	福室 凜 C	0:37:51
3	桐朋 B 3:11:55	柴田 日向 C	0:53:11	伊藤 悠真 A	1:14:23	屋敷 龍吾 B	1:04:21
	桐朋 A 4:02:04	青木 祐人 A	1:11:58	塩野 遼介 C	1:14:18	奥村 尚史 B	1:35:48
	浦和 B DISQ	曾田 和輝 A	1:41:45	森 旭陽 C	1:32:07	岡部 泰良 B	DISQ
	浦和 A DISQ	木村 真大 C	DISQ	富田 健生 B	DISQ	遠藤 颯汰 A	DISQ
	麻布 B DISQ	小寺 智樹 B	DISQ	山見 泰輝 A	1:24:28	大沼 翼 C	DISQ

女子高校生選手権クラス

	記録	第一走者	記録	第二走者	記録	第三走者	記録
参	混成 A 1:42:34	落合 英那 A	0:24:31	古田島 鈴音 B	0:33:18	飯沼 友梨 C	0:44:45

男子中学生選手権クラス

	記録	第一走者	記録	第二走者	記録	第三走者	記録
1	麻布 A 2:03:46	久米 慧 A	0:44:34	宮川 優斗 C	0:39:48	尾藤 碩 B	0:39:24
2	東海 A 2:17:18	高橋 侑大 A	1:03:40	高田 朋輝 B	0:37:47	森下 謙 C	0:35:51
	東海 B 3:42:50	伊藤 環 B	1:02:11	林 祥太郎 C	1:14:03	山田 和輝 A	1:26:36
	麻布 B DISQ	徳地 一真 C	0:48:14	山田 大暉 B	1:01:16	谷村 康介 A	DISQ
	桐朋 A DISQ	高橋 英幸 B	DISQ	田部 悠葵 A	DISQ	仁科 蓮 C	DISQ

男子高校生一般クラス

	記録	第一走者	記録	第二走者	記録	第三走者	記録
1	混成 A 0:57:28	寺嶋 謙一郎 C	0:18:10	牧戸 悠生 A	0:19:36	福井 陽貴 B	0:19:42
2	東海 A 1:07:06	生田 真大 C	0:20:14	来原 大雅 A	0:21:32	星野 蒼太 B	0:25:20
3	麻布 A 2:04:29	須田 雅大 C	0:32:05	青山 慶啓 B	0:47:54	星野 祐太 A	0:44:30
4	桐朋 A 2:04:49	中野渡 康太朗 A	1:04:12	金子 泰樹 B	0:32:55	一力 直太郎 C	0:27:42
5	桐朋 B 2:07:01	森本 裕冴 A	0:32:50	菊池 悠希 C	0:46:09	関谷 祐生 B	0:48:02
6	浦和 D 2:11:07	早松 勇輝 B	0:32:47	道家 洋平 A	0:32:07	須田 道成 C	1:06:13
7	桐朋 C 2:31:12	藤原 颯人 B	0:33:16	大槻 直央 A	1:11:50	岩田 優貴 C	0:46:06
8	浦和 A 2:42:58	諸藤 千喬 C	0:41:48	中西 陽紀 B	1:03:16	関口 翔太 A	0:57:54
9	浦和 E 2:51:05	山村 瑛 B	0:41:54	山本 剛司 C	1:29:06	塚越 貴哉 A	0:40:05
10	浦和 C 2:51:11	風見 大芽 A	0:57:46	滝沢 悠斗 C	1:05:08	小松 響介 B	0:48:17
11	浦和 B 3:05:16	山田 裕太 A	0:33:21	楠 佳泰 B	1:12:02	辻本 雄一朗 C	1:19:53
	桐朋 D DISQ	齋藤 陽希 B	DISQ	大西 明 C	1:01:33	吉澤 秀斗 A	0:37:53

2019年10月27日発行

男子中学生一般クラス

	記録	第一走者	記録	第二走者	記録	第三走者	記録
1	麻布 B 3:54:38	玉木 洸	B 0:57:57	草谷 将吾	C 1:12:28	植木 隆登	A 1:44:13
	麻布 F 4:33:17	小林 睦	A 2:10:16	西尾 豪太	B 1:22:28	濱田 樹	C 1:00:33
	混成 A 4:35:09	黒田 悠悟	A 2:00:39	長屋 清音	B 1:46:08	石塚 皓	C 0:48:22
参	麻布 C DISQ	町田 涼介	B 0:35:18	大峰 聡太	A 0:59:30	八木 優	C DNS
	麻布 D DISQ	天野 雄貴	C 2:25:19	中野 航輔	A 0:39:38	望月 佳	B DISQ
	麻布 A DISQ	濱崎 海七渡	A 1:00:12	小長谷 晃平	C DISQ	吉岡 皆那人	B 1:29:13
	麻布 E DISQ	谷 悠芦	C DISQ	小林 透哉	B 1:33:46	松岡 瑛介	A DISQ

ワンマンクラス

順位	氏名	学校	学年	記録
1	寺本 裕哉	東海中学校	3	0:23:18
2	吉原 巧真	東海中学校	3	0:38:10
3	小林 亮太	東海中学校	1	0:38:30
4	高橋 裕貴	桐朋中学校	3	0:41:51
5	小比賀 草太	広島大学附属福山中学校	1	0:43:43
6	戸田 壮一	東海中学校	1	0:43:52
7	種村 浩太郎	東海中学校	1	0:48:03

併設リレークラス

	記録	第一走者	記録	第二走者	記録	第三走者	記録
1	谷川家 2:31:24	谷川 友太	A 0:40:24	谷川 友太	B 0:46:03	谷川 理恵	C 1:04:57
	京大 B DISQ	大野 絢平	C 0:43:20	小池 椋介	A 0:57:32	岩井 龍之介	B DISQ
	京大 C DISQ	枝澤 勇太	C 1:44:57	箕浦 皓	A 1:41:36	笹部 龍仁	B DISQ
	京大 A DISQ	小丸 幸佑	A DISQ	村中 結希	B DISQ	龍溪 優希	C DISQ

併設ワンマンロングクラス

順位	氏名	所属	記録
1	古池 将樹	京大 OLC	0:45:12
2	前田 裕太	三河 OLC	0:51:26
3	大林 俊彦	大阪 OLC	1:05:17
4	鹿野 勘次	岐阜 OLC	1:21:48
5	宮崎 敦司		1:25:12

併設ワンマンミドルクラス

順位	氏名	所属	記録
1	愛場 庸雅	OLC レオ	0:42:40
2	仁多見 剛	上尾 OLC	1:00:01
3	小比賀 健司	朱雀 OK	1:00:27
4	長瀬 朋子	つるまい OLC	1:18:28

6. 運営者

実行委員長	友田 賢吾
運営責任者	谷野 文史
競技責任者	和佐田 祥太郎
渉外責任者	佐藤 遼平
会計責任者	池田 匠
広報責任者	中村 諒
イベントアドバイザー	国沢 五月、落合 公也
会場	小寺 義伸
救護	安藤 貴通、岩田 慈樹、片岡 佑太、萱尾 澄人、小森 直人
スタート	石川 創也、石田 倫啓、伊部 琴美、河村 優花、澤田 陸 椎名 晃丈、三浦 一将、渡我部 ゆき
フィニッシュ	伊藤 良介、南 吏玖
交通	川口 真司、山本 智士
計算センター	西村 直哉、山川 登
演出	根岸 健仁
隔離所	小橋 唯華、坂東 愉楽



